

【特別展】オリンピックから半世紀

あこがれの 「団地」

高度成長と
ベッドタウン横浜



2014年10月11日(土)▶2015年1月12日(月・祝)

開館時間▶▶午前9時30分～午後5時00分(入館は午後4時30分まで)

休館日▶▶毎週月曜日および年末年始(12/28～1/3)

●ただし、10/13(月)、11/3(月)、11/24(月)は開館し、
10/14(火)、11/4(火)、11/25(火)は休館します。

入館料▶▶一般300円、小・中学生150円(常設展も含む)

●毎週土曜日、横浜市内の小・中学生と高校生は無料です。

横浜都市発展記念館

Museum of Yokohama Urban History

〒231-0021 横浜市中区日本大通12

TEL 045-663-2424 FAX 045-663-2453 www.tohatsu.city.yokohama.jp/

主催▶▶横浜都市発展記念館 ◆共催▶▶横浜市教育局

協力▶▶横浜開港資料館／横浜市史資料室／神奈川新聞社

後援▶▶朝日新聞横浜総局／毎日新聞横浜支局／読売新聞東京本社横浜支局／日本経済新聞社横浜支局／NHK横浜放送局／tvk



上＝南日吉団地の全景 昭和30年代／UR都市機構所蔵写真 中＝夏休みのラジオ体操(洋光台) 昭和47(1972)年／神奈川新聞社提供写真
下＝恩田団地と東急バス 昭和39(1964)年／東京急行電鉄所蔵写真

主 な 内 容

- ① 首都圏の形成と横浜
- ② 横浜の郊外と住宅団地
「団地」のはじまり
私鉄の住宅地開発
ニュータウンの時代
「2DK」の住まい
住宅団地が建設されると
- ③ 「団地」と新しい市民の暮らし
新しい住民「ダンチ族」
激しくなる通勤ラッシュ
家電で生活が変わる
住宅団地のコミュニティ
沸き上がる住民運動

- 担当者による展示解説
- (1) 10月19日(日) (2) 11月16日(日)
- (3) 12月14日(日) (4) 1月11日(日)
- ▶ 各回午後2時00分より(約30分程度)
- * ご参加には入館料が必要です。

関 連 事 業

【連続講座】

高度成長を迎えた都市横浜

〈第1回〉11月22日(土)

あこがれの住まいの誕生

～「2DK」とは何だったのか

青木祐介(横浜都市発展記念館)

〈第2回〉12月6日(土)

高度成長と横浜の市民運動

羽田博昭(横浜市史資料室)

時間▶午後1時30分～3時30分

会場▶横浜開港資料館 講堂
(みなとみらい線日本大通り駅より徒歩2分)

募集人員▶80名(多数の場合は抽選)

受講料▶全2回1,000円

応募方法▶往復葉書に住所、氏名、電話番号を
明記の上、お申し込みください。

締切り▶11月10日(月) 必着

宛先▶231-0021 横浜市中区日本大通12
横浜都市発展記念館講座係

【ミニ劇場】

昭和の団地スケッチ～横浜編

団地に暮らす平凡な一家の日常を
寸劇で描きながら、
高度成長期を生きた日本人の記憶や
思いをふりかえります。

日時▶11月23日(日・祝)

- ① 午前11:00～ ② 午後2:00～
- 12月7日(日)
- ③ 午前11:00～ ④ 午後2:00～
- (約60分程度)

出演▶ミュージアム・シアター・ワークショップ
(MTW)

会場▶当館1Fギャラリー *応募不要、観覧は無料です。

【写真パネル展】

洋光台43年の今昔物語

「ルネッサンスin洋光台」フォトコンテストより

会期▶10月25日(土)～11月21日(金)

12月13日(土)～1月12日(月・祝)

会場▶当館1Fギャラリーおよび旧第一玄関(無料)

協力▶「ルネッサンスin洋光台」
今昔フォトコンテスト実行委員会、
UR都市機構、神奈川県、横浜市、磯子区

「多摩川西南新都市 土地利用計画図(案)」
昭和31(1956)年/東京急行電鉄株式会社所蔵



「ラッシュ緩和のため東海道線に線路をふやします」(ポスター)
昭和40(1965)年頃/長谷川弘和氏旧蔵・岡田直子氏寄贈・当館所蔵



東京オリンピックと東海道新幹線の開業。
日本の高度経済成長を象徴する二つの大イベントから
今年でちょうど半世紀が過ぎます。
高度成長期には、地方から大都市へ、
とりわけ首都の東京へは多くの人口が集中しました。
その居住地は近県へ広がり、横浜市内でも
農地や山林の宅地化が急激に進行しました。
横浜は、東京のベッドタウンという特性を
強く持つことになりました。
当時、開発された郊外の住宅地を代表するのが、
中高層の集合住宅から成るいわゆる「団地」でした。
主に入居したのは、
その後の社会の主流となるサラリーマンです。
「ダンチ族」と呼ばれた彼らの新しいライフスタイルが、
日本人の生活を大きく変化させるきっかけとなります。



「公団住宅の住いしあり」
昭和43(1968)年
若木信子氏所蔵



住棟番号(滝ノ上団地)
昭和33(1958)年
UR都市機構所蔵



昭和31(1956)年/相鉄不動産株式会社所蔵

公田町団地
昭和39(1964)年
UR都市機構所蔵写真



「賃貸住宅入居申込案内 詩田・公田町」昭和39(1964)年/UR都市機構所蔵

交通アクセス

東急東横・みなとみらい線日本大通り駅(3番出口)0分
JR京浜東北・根岸線関内駅(南口)から徒歩約10分
横浜市営地下鉄ブルーライン関内駅(1番出口)から徒歩約10分
横浜市営バス「日本大通り駅県庁前」から徒歩1分

